

2024年12月25日

修成建設専門学校
校長 見邨佳朗 様

学校関係者評価委員会
委員長 藤田 晴樹

学校関係者評価委員会報告書

令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 評価者

令和6年度 学校法人修成学園 学校関係者評価委員

委員名簿(敬称略・順序不同)	
丸山 徹	卒業生保護者
相賀 勝	元吹田市理事
藤田 晴樹	株式会社ジェイネット 代表取締役
市岡 武	村本建設株式会社 常任顧問
大槻 憲章	NPO 法人おおさか緑と樹木の診断協会 理事長
田中 文雄	大和田振興町内会 会長
大和 正	学校法人興國学園 興國高等学校 渉外顧問統括 校務運営委員長
壺山 和憲	壺山建設株式会社 取締役社長

2. 評価期間

令和5年4月1日から令和6年3月31日

3. 委員会の開催状況

第一回委員会 令和6年11月7日(会場 修成建設専門学校 146教室)

第二回委員会 令和7年2月13日(会場 修成建設専門学校 146教室・実施予定)

4. 学校関係者評価委員会報告

令和 6 年 11 月 7 日に開催された委員会において、修成学園山下理事長、見邨校長、副校長、学生相談室室長、学園顧問、経営戦略室長、事務局長、及び広報部長より、令和 5 年度の業務について自己評価報告書に基づき報告を受け、評価内容の確認を行った。また委員各自が、自己評価報告書に示されている評価項目に対し「自己評価結果」「改善に向けた取り組み」「今後の改善方策」について採点(4 点満点)を行い、その結果を示した。さらに、委員各位からの意見をとりまとめ報告書とする。

5. 採点結果(平均値)

調査項目	自己評価 結果	改善に向けた 取り組み	今後の 改善方策
基準 1 (教育理念・目的・育成人材像)	4.00	4.00	4.00
基準 2 (学校運営)	4.00	4.00	4.00
基準 3 (教育活動)	4.00	4.00	4.00
基準 4 (修学成果)	4.00	4.00	4.00
基準 5 (学生支援)	4.00	4.00	4.00
基準 6 (教育環境)	4.00	4.00	4.00
基準 7 (学生の募集と受け入れ)	3.71	3.86	4.00
基準 8 (財務)	4.00	4.00	4.00
基準 9 (法令等の遵守)	4.00	4.00	4.00
基準 10 (社会貢献)	4.00	4.00	4.00
総計	3.97	3.99	4.00

6. 意見

-
- いつも、学校運営と教育活動に熱意をもって取り組んでおられるのを拝察し、敬意を表します。コロナ禍後、社会環境が大きく変わる中で、いろいろとご苦労が多いと思いますが、よろしくお願ひいたします。
 - 少子化が進む中、学生数も減少傾向が続くと思われます。本校の強味を進化させながら社会の変化に対応出来る学校運営と、学生、教職員の人材育成も引き続きお願ひいたします。卒業生も一体となってさらに社会とのネットワークを強化できるポテンシャルを感じております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
 - 学校評価報告をお聞きして、毎年改善されている様子を伺い御校の発展を強く感じております、また先生方のご努力に敬意を表しております。しかし何時も申し上げる通り、私学の根幹は生徒の確保が絶対である事は、皆さんのが 1 番理解されていると思います。例えば中退者をゼロに、その為の方策は難解だと理解しておりますが、文面にもありました通り、学ぶ分野の理解が不十分な生徒の入学。これの対策はオープンキャンパスは勿論、出前授業、各コースの実地体験を少しでも多くの機会をつくって、御校で学ぶ内容や良さを、徹底的にアピールされる事をご提案申し上げます。何かの一助になればと思い、大変失礼な発言をお許し下さい。
 - 日々あらゆる教育について変化しており 2025 年大阪万博が終了する。その後建設業界が変化する。今迄、建築ブームで日本国内が騒がれていたが、2026 年以降、新建築物は少なくなり、既存建物等の維持修繕に迫われる時代に入ってくる。その教育についても協力関係にある企業、業界団体との連携を取り本校卒業生共、今以上に連携を密にし、交流を図る事が大切かと思います。
 - 企業も人材が不足しており学校も教職員の人材確保に苦労されているものとお察し致します。限られた時間で多くのカリキュラムを処理しておられる学校関係者の皆さんの努力に敬意を表します。カリキュラムにはインターンシップも導入されており就職後のミスマッチを防ぐための対策を取られております。高い進路決定率と共に今後も維持される様お願いします。
 - 実際に強い学生さんを社会に送り込み、卒業後の O B と学園の連携や協力も良く出来ていると感じます。教育目標にもある様に 5 年先、10 年先の世の中の有るべき姿を想像して、変革を恐れず、先取りの試みは大切です。テクニカルも大切ですが、建設業界の将来を創造できるマネジメントや経営思考も大切かと存じます。

以上